

1級技能検定実技試験対応動画教材「48分で学ぶ気づきを促す質問集」たくさんのバリエーションで学びます。

受講価格(税込み)		会員価格 5,850円	一般価格 6,850円	印刷用テキスト代 1,100円
1級面接試験では、(本人はできていると思っている)経験2年目の事例相談者に対し、気づいていない問題を、事例指導者が気づきを促し、目標に合意してもらうという難関試験です。実際の面談では本人が気づいていないので、突然の目標に対し、抵抗が生まれ、目標も合意に至りません。				
気づきを促す質問をするときに意識する4つのポイント				
① 適切なタイミングがある	② ケースから離れること	③ 質問は抵抗を招きやすい	④ 開かれた質問を使うこと	
教材の内容				
本講座では気づきのための4つポイントを解説しながら「気づきを促す質問」の引き出しを受検者が増やすことを目的としています。				
いつもの質問を少し変えるだけで、抵抗から気づきをうながすことができることを、いくつかの事例を挙げて紹介しています。				
なかなか事例相談者が気づいてくれないと、時間を気にするあまり、つい受検者は「説得モード」になってしまう傾向にあります。				
説得すると抵抗も生まれます。抵抗が怖くて本質的な解決ができず、承認ばかりで終わってしまうこともあります。				
本動画教材の後半に、多くの受検者を悩ます「気づきを促す質問を考える」をテーマに自身で考える問題が提示されます。				
それらを5つの例題を使って具体的な会話のやりとりを音声で流して、解決案を示しています。				
指導者視点の問題把握のための8つの例題(意図性を持った質問)も対話のやり取りをAIの音声を通して解説しています。				
抵抗を減らす質問をする場合などや質問を変えるだけで抵抗を減らす事例も説明しています。				
2026年3月13日まで視聴可能				
1	カリキュラム 1級実技試験の評価区分とその内容(評価区分に「気づきを促す」という言葉(基本的態度・関係構築力) 事例の本質(問題把握力)がある。			
2	気づきを促す質問をするときの意識すべき4つのポイントの解説30分の面談の構造化(解説)			
3	抵抗は特にどこのプロセスで起こるのか?・質問の仕方を変えるだけで抵抗を軽減できる。それでも抵抗を受けてしまったらどうするか。			
4	指導者視点の問題把握のための意図性について詳細解説(音声でのやりとりの13の例題で、ご自身が使える質問集に加えてください)。			